

風間研教授 経歴 研究業績

学歴等

- 1965年3月 立教高等学校卒業
- 1965年4月 立教大学文学部心理学科入学
- 1967年4月 フランス、ブザンソン大学留学（3年間）
- 1970年4月 立教大学文学部フランス文学科転科編入学
- 1974年3月 立教大学大学院文学研究科フランス文学専攻修士課程修了
- 1978年3月 中央大学大学院文学研究科フランス文学専攻博士課程満期退学
- 1978年7月 フランス、パリ大学およびトゥール大学にて夏期研修に参加
- 1984年4月 フランス、パリ・ソルボンヌ大学にてフランス語ならびにフランス語教育法を勉強（1年間）

職歴等

- 1977年4月 東京薬科大学非常勤講師（1986年3月退職）
- 1978年4月 共立女子大学非常勤講師（1992年3月退職）
- 1979年4月 日本福祉大学専任講師
- 1984年4月 日本福祉大学助教授
- 1985年4月 津田塾大学非常勤講師（2001年3月退職）
- 1989年4月 日本福祉大学教授
- 1998年4月 中央大学商学部非常勤講師（1999年3月退職）
- 1999年4月 法政大学経済学部教授
- 2009年4月 フランス、パリ第四大学客員研究員（2011年3月まで）

学会および社会における活動

- 1972年4月 日本フランス語フランス文学会会員（現在に至る）
- 1982年4月 日本フランス語フランス文学会資料委員（1984年3月まで）
- 1985年4月 日本演劇学会会員（現在に至る）

1990年4月 日本フランス語教育学会会員（現在に至る）

著 書〔単著〕

- 『演劇の荒野から』。青弓社。1984年
 『パリの芝居小屋から』。筑摩書房。1987年
 『スペクタクルの感性』。河出書房新社。1988年
 『大恋愛』。講談社現代新書，講談社。1990年
 『父親のいない劇場から』。青弓社。1990年
 『小劇場の風景』。中公新書，中央公論社。1992年
 『パリの文化誌』。潮出版社。1993年
 『小劇場，みんながヒーローの世界』。青弓社。1993年
 『幕間のパリ』。NTT出版。1995年
 『舞台の上の社会』。みすず書房。2000年

著 書〔共著〕

- 『フランス文学研究文献要覧』。全五巻。日外アソシエーツ。紀伊国屋書店。1981年～82年。
 『舞台美術——手塚伸一の仕事』。未来社。1986年
 『文化のなかの人間』。光和堂。1989年
 『演劇の近代——中央大学人文研究所研究叢書14』。中央大学出版部。1996年
 『現代の演劇II——講座日本の演劇』。勉誠社。1997年

研究論文

- 「ディドロにおける演技観について」。修士論文・立教大学。1974年
 「Comment Diderot écrivit "Le Paradoxe sur le comédien" (仏文)。中大仏文研究 8号。1975年
 「英国滞直後のヴォルテールの悲劇観について」。中大仏文研究 9号。1976年
 「ディドロにおける演劇の発見」。中央大学大学院研究年報 6号。1977年
 「18世紀初頭の一悲劇論について」。中央大学大学院研究年報 7号。1978年
 「Riccoboni Films の演技論」。日本福祉大学研究紀要50号。1981年
 「Riccoboni Films の『劇芸術論』に関する4つの批判文と Riccoboni Films の反駁

- について」。日本福祉大学研究紀要54号。1982年
- 「Prince de Ligne の演劇論について」。日本福祉大学研究紀要57号。1983年
- 「1960年、日本におけるアンチテアトル」。日本福祉大学研究紀要74号。1987年
- 「破壊の演劇の意志について」。日本福祉大学研究紀要75号。1988年
- 「白人絶対主義の崩壊」。日本福祉大学研究紀要79号。1989年
- 「英雄のいない時代」。日本福祉大学研究紀要83号。1990年
- 「ジョルジュ・ラボーダン演出の『ロレンザッチョ』について」。日本福祉大学研究紀要85号。1991年
- 「1990年～91年。パリにおけるモリエール劇の流行についての一試論」。日本福祉大学研究紀要87号。1992年
- 「カミュ作『カリギュラ』の新演出をめぐって」。日本福祉大学研究紀要89号。1993年
- 「ジャン＝ピエール・ヴァンサン演出の「世紀児」連作上演についての一考察」。日本福祉大学研究紀要92号。1994年
- 「演出家マティアス・ランゴフについての一試論」。日本福祉大学研究紀要98号。1998年
- 「演出家ロジェ・ブランションの舞台からパリを探る」。日本福祉大学研究紀要99号。1998年
- 「アンリ・ベック『ラ・ナヴェット』の意義について」。法政大学多摩論集・第18巻。2002年
- 「『パリ女』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第22巻。2006年
- 「つかづームから野田秀樹へ」。「国文学・解釈と鑑賞」別冊「現代演劇」至文堂。2006年。12月5日
- 「『ミシェル・ポパール』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第23巻。2007年
- 「『鴉の群れ』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第24巻。2008年
- 「『放蕩息子』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第25巻。2009年
- 「『かけおち』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第28巻。2012年

年

『誠実な夫人』は同時代人にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第29巻。

2013年

『パリ女』は1890年の観客にどう観られたか」。法政大学多摩論集・第30巻。

2014年

「アンリ・ベックの戯曲における『女性観』について」。法政大学多摩論集・第

31巻。2015年

学会発表

「ウダール・ラモットの悲劇論」。日本フランス語フランス文学学会。春季大会。

口頭発表。於明治学院大学。1977年5月

論説・その他

「パリ観劇記——腐っても鯛」。『話の特集』。1979年6月号

「パリ観劇記——太陽劇団を中心に」。『話の特集』。1980年4月号

「18世紀フランスにおいて古典主義演劇はいかに崩壊していったか」。日本福祉

大学研究所報15号。1980年5月

「パリ観劇記——パリテアトルは燃えているか」。『話の特集』。1981年6月号

「81年度のフランス演劇」。『国際演劇年鑑1982年号』。国際演劇協会。1982年3

月

「パリ観劇記——パリテアトルにメフィストを求めて」。『話の特集』。1982年4

月号

「新聞の劇評とは何か」。『話の特集』。1982年11月号

「ルノー・バロー劇団を観た、そして」。『話の特集の特集』。1982年11月

「フランス『太陽劇団』のこと」。『ITIニュース』37号。国際演劇協会。1983年

3月

「パリ観劇記——パリの屋根の上スーパーマンが飛ぶ」。『話の特集』。1983年5

月号

「ヴィテーズのハムレットを観る」。『ITIニュース』40号。国際演劇協会。1984

年3月

「パリ観劇記——太陽劇団のシェイクスピアを観る」。『話の特集』。1984年4月

号

「太陽劇団の『リチャード2世』と『十二夜』を観る」。『ITIニュース』42号。

国際演劇協会。1984年9月

「わが町——鍋屋横丁」。『話の特集』。1985年6月号

「新作と外国人の演出」。『ITIニュース』44号。国際演劇協会。1985年6月

「パリ観劇記——いま演出の時代」。『話の特集』。1985年9月号

「フランス現代演劇の現状」。日本福祉大学研究所報38号。1986年3月

「活性化するパリ演劇」。毎日新聞。1988年6月11日付

「竹内統一郎の新作に都会の孤独を見る」。『クリティーク』11号。青弓社。1988年4月。

「木野花の冒険」。『クリティーク』12号。青弓社。1988年7月。

「パリの9月——歳時閑談」。『文学』。岩波書店。1988年9月号

「横内謙介は偏差値教育が生んだ徒花か」。『クリティーク』13号。青弓社。1988年10月。

「芝居を見る楽しみ」。『小説宝石』。1988年10月号

「未成熟な大人の世界を告発——演劇的生活」。『小説コットン』。天山出版。1988年12月号

「パリの観客」。『悲劇喜劇』早川書房。1988年12月号

「新しい親子関係を求めて」。『クリティーク』14号。青弓社。1989年1月。

「アンゾー・コールマンの新作を見る」。『悲劇喜劇』。早川書房。1989年1月号

「仕組まれた『ごっこ』の世界——演劇的生活」。『小説コットン』。天山出版。1989年1月号

「金も出すが口も出す観客のススメ——演劇的生活」。『小説コットン』。天山出版。1989年2月号

「町に出た詩人たちの朗読を聞きながら」。『鳩よ』。マガジン・ハウス。1989年2月号

「相手の本心を問い求める乙女心——演劇的生活」。『小説コットン』。天山出版。1989年3月号

「エリック・ロメール雑感」。「変ホ長調三重奏曲」公演パンフレット。1989年4月

「平和日本に進行する戦慄——演劇的生活」。『小説コットン』。天山出版。1989

年4月号

「ベルナール＝マリー・コルテスの新作を見る」。『悲劇喜劇』。早川書房。1989

年5月号

「パリの演劇雑感」。地人会「フィガロの結婚」公演パンフレット。1989年5月

「孤独な若者たちのいのちの紐——現代演劇の風景」。『潮』。1989年5月号

「おじさんも若者の芝居を見に行こう」。『本』。講談社。1989年7月号

「イベントに群がる若者たち——現代演劇の風景」。『潮』。1989年9月号

「パリの劇場の『匂い』」。東急シアターコックーン公演パンフレット。1989年

9月

「『ダルトニヤン物語』を観る」。『悲劇喜劇』。早川書房。1989年10月号

「はたちの若者たちが見た『男の生き方』——現代演劇の風景」。『潮』。1990年

1月号

「手にカラオケ，心に変革——現代演劇の風景」。『潮』。1990年2月号

「パリで芝居を見る——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月5日付

「演出を見る楽しみ——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月6日付

「ハムレット——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月7日付

「ジャンヌ・モロー——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月8日付

「若者の芝居——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月12日付

「若者ウォッチング——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月13日付

「能面症——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月14日付

「演劇＝知的ゲーム——仕事の周辺」。朝日新聞。1990年3月7日付

「ジテキンがCDを出した」。『小説宝石』。1989年3月号

「今シーズンのパリ演劇」。『悲劇喜劇』。早川書房。1990年4月号

「恋愛できない若者たち」。『現代』。講談社。1990年4月号

「パリで見た『夏の夜の夢』」。東急文化村「夏の夜の夢」公演パンフレット。

1990年7月

「日本の『お父さんに笑顔を——現代演劇の風景』」。『潮』。1990年5月号

「本当の豊かさとは」。『キャリアガンダンス』。リクルート。1990年6月号

「さよなら騎士たち——楽しみの世紀末」。『群像』。講談社。1990年7月号

「読書あらかると」。『ITIニュース』64号。国際演劇協会。1990年7月号

「世界の中の『日本』の位置を巡って——楽しみの世紀末」。『群像』。講談社。

1990年8月号

「若者が『夏の夜の夢』の中に見たものは——楽しみ世紀末」。『群像』。講談社。1990年9月号

「モリエールの流行——パリの演劇シーズン」。毎日新聞。1991年2月16日付
「『革命のミステリー』を見る」。『悲劇喜劇』。早川書房。1991年2月号

「ボーダレスの時代にパリで芝居を観る」。『悲劇喜劇』。早川書房。1991年3月号

「若者の芝居を観る」。『よむ』岩波書店。1991年4月号

「パリで見たロレンザッチョ」。『ITIニュース』68号。国際演劇協会。1991年4月

「新感線がやって来た，ヤァヤァヤァ」。『よむ』。岩波書店。1991年5月号

「スキヤキの用意をする女たち」。『よむ』。岩波書店。1991年6月号

「読み応えある『演劇批評家宣言』」。『週刊読書人』。1991年7月1日付

「風のなかの塵」。『よむ』。岩波書店。1991年7月号

「戦争報道はディスクジョッキーのノリで」。『よむ』。岩波書店。1991年8月号

「塀の外に向かって突っ走れ」。『よむ』。岩波書店。1991年9月号

「みんな変わっているわよ」。『よむ』。岩波書店。1991年10月号

「ちょっとステキな『夏休み語辞典』」。『よむ』。岩波書店。1991年11月号

「ドキュメンタリードラマの作られ方」。『よむ』。岩波書店。1991年12月号

「若者たちの『純愛物語』の読み方」。『よむ』。岩波書店。1992年1月号

「大人は死ぬ間際になって現実を理解する」。『よむ』。岩波書店。1992年2月号

「若者に対して動揺する『中年男』の男心」。『よむ』。岩波書店。1992年3月号

「諏訪優のねこの本書評」。『NUF』。1992年3月号

「誰が『ハッピーマン』なのか!」。『よむ』。岩波書店。1992年4月号

「舞台と客席に溢れる淋しい若者たち」。『レスペック』。白水社。1992年4月号

「暴君生む知識人の無力つく」。朝日新聞。1992年5月18日付

「淋しいのは日本の若者だけではない」。『よむ』。岩波書店。1992年5月号

「失われた『幸福』を求めて」。『レスペック』。白水社。1992年5月号

「女と男のシネマパリ」。『FRAU』。講談社。1992年5月12日

「社会人になっても芝居が観たい」。『よむ』。岩波書店。1992年6月号

「想像力が刺激されたい」。『レスペック』。白水社。1992年6月号

- 『恨めしや』とでてきたお菊が本当に恨めしかった相手とは。『よむ』。岩波書店。1992年7月号
- 「大都会に住む青年がズバリ浮き彫りにされて」。『レスペック』。白水社。1992年7月号
- 「アイスクリームマンに岩松了の芝居は理解できるか」。『レスペック』。白水社。1992年8月号
- 「二つの『サロメ』」。『よむ』。岩波書店。1992年8月号
- 「三谷幸喜『99連隊』」。『テアトロ』。1992年8月号
- 『惚れて』いても『駄目』な恋愛とは。『レスペック』。白水社。1992年9月号
- 「傷つくくらいなら、愛を失う方を選ぶ」。『よむ』。岩波書店。1992年9月号
- 『劇的興奮』を味わいたい。『レスペック』。白水社。1992年10月号
- 「完成品に、「感動」を求めても、虚しい」。『よむ』。岩波書店。1992年10月号
- 「終わりのない『芝居』を観る観客たち」。『レスペック』。白水社。1992年11月号
- 「野田秀樹の『演出』」。『よむ』。岩波書店。1992年11月号
- 「若者の演劇に見る『大恋愛』への強い憧れ」。『こころの科学』。1992年12月号
- 「小劇場でフランス古典劇の興奮を味わう」。『よむ』。岩波書店。1992年12月号
- 「パリ演劇、フェドーとの出逢い」。銀座セゾン劇場「間抜け役」公演パンフレット。1992年12月
- 「九二年、秋のパリ演劇」。劇団民芸「木曜日の女たち」公演パンフレット。1993年2月
- 「男女総入れ替えのハムレット」。『よむ』。岩波書店。1993年1月号
- 「何が『もはやこれまで』なのか」。『よむ』。岩波書店。1993年2月号
- 「芝居を楽しむ」。『コンステラツィオン』278号。1993年2月
- 「まだアプレゲールだったのか」。『よむ』。岩波書店。1993年3月号
- 「ザガジラ『POPCORN NAVY』」。『テアトロ』。1993年3月号
- 「小劇場、みんながヒーローの世界」。『NFU』46号。1993年3月
- 「何かを表現したい」。『よむ』。岩波書店。1993年4月号
- 「リシャール・フォンタナの魅力」。『悲劇喜劇』。早川書房。1993年6月号
- 「時代を映す鏡——若者演劇」。朝日新聞。1993年7月2日付

- 「鳩を飼う姉妹」。『テアトロ』。1993年9月号
- 「感動することの意味」。中日新聞。1993年10月7日付
- 『『4秒の革命』書評』。産経新聞。1993年10月17日付
- 「竹中直人の会『こわれゆく男』」。『テアトロ』。1994年3月号
- 「わたしが子供だった頃」。『テアトロ』。1994年9月号
- 「フランス車に押し寄せる世界的均一化の波」。『サライ』。1994年6号（3月）
- 「第三舞台全芝居」。『TJ』。1994年4月
- 「二つのイピーゲネイア」。ひょうご舞台芸術「オイディプス王」公演パンフレット。1994年9月
- 「パリで見たスカパン」。東急シアターコックン「スカパン」公演パンフレット。1994年10月
- 「パリのコメディ事情」。銀座セゾン劇場「シャンブル・マンダリン」公演パンフレット。1995年1月
- 「蜷川演出の『ゴドーをまちながら』」。『テアトロ』。1995年3月号
- 「かもねぎショットの『裸の国』」。『テアトロ』。1996年3月号
- 「フランスにもいた悪党たち」。『悲劇喜劇』。早川書房。1996年7月号
- 「鴻上尚史の『トランス』」。『テアトロ』。1997年3月号
- 「パリ郊外の劇場は花盛り——パリ演劇と30年」。『ふらんす』。白水社。1997年6月号
- 「『パリのふつうの観客』になるための試練（留学日記）」。『悲劇喜劇』。早川書房。1997年7月号
- 「演出家の時代とタルチュフ——パリ演劇と30年」。『ふらんす』。白水社。1997年7月号
- 「ユシエット座のことなど——パリ演劇と30年」。『ふらんす』。白水社。1997年8月号
- 「創作劇のリアリティ（パリの新作）」。『テアトロ』。1997年11月号
- 「シェイクスピアはボーダーレス」。新国立劇場「リア王」公演パンフレット。1998年1月17日発行
- 「やはり井上ひさしがいい」。『テアトロ』。1998年3月号
- 「この時代をどう『生きる』か」。『テアトロ』。1999年3月号
- 「パリで見たチェーホフの思い出」。『悲劇喜劇』。早川書房。1999年10月号

- 「素朴な踊りと素朴な感動」。『テアトロ』。2000年3月号
- 「二人の統治者が意味するもの」。『テアトロ』。2001年3月号
- 「太陽劇団初期の思い出」。新国立劇場「堤防の上の鼓手」公演パンフレット。
2001年
- 「原千代海『イプセンの読み方』書評」。『文学』。岩波書店。2001年9月号
- 「永井愛、昨年も健在なり」。『テアトロ』。2002年3月号
- 「卓越した演出家が創る芝居の醍醐味を味わう」。『テアトロ』。2003年3月号
- 「永井愛のナイーブさ」。『悲劇喜劇』。早川書房。2003年6月号
- 「パリで観たイヨネスコの舞台とは」。新国立劇場「ザ・ゲーム」公演パンフレット。2004年2月20日発行
- 「土田英生が創る『嘘の世界』」。『テアトロ』。2004年3月号
- 「2004春、パリの演劇は相変わらず奥が深い」。新国立劇場「請願」公演パンフレット。2004年6月22日発行
- 「中島淳彦の芝居を楽しむ」。『テアトロ』。2005年3月号
- 「今年の春、パリ演劇は?」。新国立劇場「うら騒ぎ」公演パンフレット。2005年6月27日発行
- 「パリで観たイリーナ・ブルック」。新国立劇場「ガラスの動物園」公演パンフレット。2006年2月9日発行
- 「演劇と自由と」。『テアトロ』。2006年3月号
- 「パリでは『古典劇』が花盛り」。新国立劇場「夢の疵」公演パンフレット。2006年6月28日発行
- 「ラシェル嬢が見たい」。『悲劇喜劇』。早川書房。2006年11月号
- 「長塚圭史に期待する」。『テアトロ』。2007年3月号
- 「世界の中の東京という視点」。『悲劇喜劇』。早川書房。2007年8月号
- 「ムスシュキンと『太陽劇団』」。『テアトロ』。2008年1月号
- 「井上ひさしのこだわり」。『テアトロ』。2008年3月号
- 「最近パリで上演されたコルネイユ作品を考える」。新国立劇場「舞台は夢」公演パンフレット。2008年12月